

イザヤ書45章9-25節 「主の義による救い」

1A 神の主権に抗議する者たち 9-13

1B 陶器師を抗議する陶器 9-10

2B 創造主の義 11-13

2A ご自分を隠す方 14-19

1B イスラエルの神を認める異邦人 14-17

2B 公正常大な方 18-19

3A すべての者の主 20-25

1B 前から告げていた方 20-21

2B すべてがかがむ義 22-25

本文

イザヤ書 45 章を開いてください。今晚は、9 節から読んでいきますが、前回のことを思い出してください。主が、ユダヤ人をバビロンの捕囚状態から解放し、エルサレムに帰還せしめ、そこに神殿を再建させることを約束されます。そこで驚くことを、主は言われます。それは、キュロスという名を挙げるのです。彼を牧者だと呼び、また油注がれた者だと呼ばれます。まず、キュロスはこの預言の時に、存在もしていない人物です。生まれてくるのは、約 100 年後です。彼が、ユダヤ人の指導者となり、解放者となるのです。しかし、彼は異邦人です。異教徒であります。異教徒が、ユダヤ人の王のような存在となり、解放し、エルサレムに神殿を再建するように命じるのです。

この驚くべきわざを、天からの救いとして 45 章 8 節で表現します。そして、天からの救いが地上に降りてきて、正義を芽生えさせるということです。私たちは正義と言えば、こつこつと人の努力や知恵によって積み上げていくものだと思いますが、人が思いつきもそないこと、全く人の思いや道を超えた形で、主が一方向的に与えられるのです。神の恵みによって、神の正義が成立します。そして、ユダヤ人をご自身の義によって救われるのです。これが、私たちを神が救われる道です。ご自身の恵みによって、賜物として救いをくださいます。

1A 神の主権に抗議する者たち 9-13

そこで、今回の学びの中身に入りますが、主がなされることは、恵みが大きく、私たちの思いを超えるので、反発も強くなるのです。私は一度、聖地旅行で、「恵みは人を怒らせる」というテーマで話したことがあります。主があまりにも大らかで気前が良いので、真面目な人たちは信じることができず、怒るのです。五時から雇われた人たちが、初めに一デナリの賃金を得て、朝から働いた人たちが受け取った時に一デナリで、それで怒ったということですね。

1B 陶器師を抗議する陶器 9-10

⁹ ああ、自分を形造った方に抗議する者よ。陶器は土の器の一つにすぎないのに、粘土が自分を形造る者に言うだろうか。「何を作るのか」とか「あなたが作った物には手がついていない」と。¹⁰ わざわいだ。自分の父に「なぜ子を産むのか」と言い、母に「なぜ産みの苦しみをするのか」と言う者。

ユダヤ人たちは、自分たちが異邦人のくびきから解き放たれることを願っていました。それは、自分たちのための王が来て、そのくびきを打ち砕いてくださると期待していました。ところが、イスラエル人でもない人が、異教徒が、まさにイスラエルの王のようにして、メシアのようにユダヤ人に救いを与えるのです。そんなことあるものか！ということで反発しているのですが、それをここで、主は、ご自身を陶器師に、あるいは父や母に喩えているのです。陶器が陶器師に抗議していることほど、滑稽なことはありません。また、親に対して、なぜ自分を産んだのか言っているのも同じです。神の恵みには、神がそのようにする権利があるのであり、もしこちらの努力や行いに応じて神が何かをするなら、それは神の主権ではなくなるのです。

この箇所を使って、パウロは、神の恵みによるご計画と主権についてロマ 9 章で語ります。主が、なぜ、ユダヤ人のためにメシアが来たのに、多くが受け入れなかったのかについて、神の選びがあるからだということを話します。アブラハムから生まれたからといって、すべてがイスラエル人になるわけではなく、神がイサクをご自分の約束の子とし、またエサウではなく、ヤコブを選ばれました。そこには、ヤコブが何かやったからということではなく、母の胎にいる時から神が選ばれていたものであり、もっぱら神が愛しておられるから、そうしたのです。

さらに、主は人を頑なにすることさえします。主はモーセに憐れみをかけ、エジプトのファラオについては、その心をかたくなにしました。そこで、ここでユダヤ人が異教徒を救い主に定められたように、その主権に対して抗議するのです。「ロマ 9:19-21 すると、あなたは私にこう言うでしょう。「それではなぜ、神はなおも人を責められるのですか。だれが神の意図に逆らえるのですか。」人よ。神に言い返すあなたは、いったい何者ですか。造られた者が造った者に「どうして私をこのように造ったのか」と言えるでしょうか。陶器師は同じ土のかたまりから、あるものは尊いことに用いる器に、別のものは普通の器に作る権利を持っていないのでしょうか。」

私たちは、ここまで圧倒的な神の憐れみの中で支えられています。そして、自分たちの思いによって、その憐れみのわざに対して抗議してしまうのです。主は憐れんで行っておられることなのに、反発してしまうのです。けれども、陶器師が陶器を形造るように、私たちも神のよって形造られて、その作品へと変えられて行きます。

2B 創造主の義 11-13

¹¹ イスラエルの聖なる方、これを形造った方、主はこう言われる。「これから起こることを、わたしに

尋ねよ。わたしの子たちについて、またわたしの手のわざについて、あなたはわたしに命じるのか。
12 このわたしが地を造り、その上に人間を創造した。このわたしが手で天を延べ広げ、その万象に命じたのだ。

今度は、異邦人たちも含めて、主がキュロス王を用いて、ユダヤ人たちの救いを行われることに、そんなことあってはならないと反発していることに対して、宣言されています。ペルシアのキュロス王は、当時の世界帝国でありますから、世界の国々に、キュロス王の特別な扱いについて、人々に知らせが拡がるのです。

そこで、主は、「わたしの子について、あなたは命じるのか？あなたがたは、尋ねるべきではないか？こうであってはいけないというのか？」とされているのです。そして、異邦人たちであっても、天地の創造については、だれもが啓示されています。わかっています。イスラエルに対して、主が行われることについて、神は全世界の主として、わたしを認めよとされているのです。

私が、ユダヤ人について深く考えるきっかけになったのは、アメリカの首都、ワシントン DC にある、ホロコースト記念館を訪問した時です。歴史はいろいろな悲惨なことがありましたが、ユダヤ人が受けたものが、特別な者であることを知りました。そして、何よりも、世界の超大国の首都に、このことを忘れてはいけないと強い意志をもって示していることに、驚愕しました。世界を相手にして、自分たちのことを知らせているのです。世界の人口でわずかにしかないユダヤ人が、そしてその国イスラエルが、超大国アメリカが中心にして取り組まなければいけないほど、注目されています。これ自体が、かつて主が、世界帝国の王キュロスによって、ユダヤ人の救いを成し遂げて、世界に、ご自身が神であることを示していることに他なりません。

そして、何よりも、イスラエルの王であるイエスが、ユダヤ人のためだけでなく、異邦人の救いのために来られて、それでイスラエルのことが世界のあらゆる民族に知られていることによって、主はご自身が神であることを証しているのです。

13 このわたしが義をもって彼を奮い立たせ、彼の道をことごとく平らにする。彼がわたしの都を建て直し、わたしの捕囚の民を解放する。代価を払ってでもなく、賄賂によってでもない。——万軍の主は言われる。」

主は、ご自分の義によってのみ、行っていることを示すために、キュロス王を奮い立たせます。他のだれがしているのではなく、神だけが正しいことを示すためなのです。人ができるのは、ただ信じることだけです。この方が行われていることを信じるだけです。これが、福音であります。「ロマ 1:17 福音には神の義が啓示されていて、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。」

そして、もう一つ興味深いのは、キュロス王が、ユダヤ人たちにここまでの動機が、何も見つからないことです。「代価を払ってでもなく、賄賂によってでもない。」と言っていますね。何か彼に政治的に得になるようなことは、何一つないのです。それでも、キュロスは動きました。ここに、ますます、主ご自身がこのことを行われたことが、明らかになっているのです。

2A ご自分を隠す方 14-19

1B イスラエルの神を認める異邦人 14-17

¹⁴ 主はこう言われる。「エジプトの産物とクシュの商品、それに背の高いセバ人も、あなたのところにやって来て、あなたのものとなる。彼らはあなたの後に従い、鎖につながれてやって来る。そして、あなたにひれ伏して、あなたに祈る。『神はただあなたのところにだけおられ、ほかにはなく、ほかには神々はいない』と。」

以前、キュロス王が、クシュやエジプト、またセバを征服するという、預言を読みました。「イザ 43:3-4 わたしはあなたの神、【主】、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主であるからだ。わたしはエジプトをあなたの身代金とし、クシュとセバをあなたの代わりとする。わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だから、わたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにする。」クシュは、エチオピアとも訳されますが、今のスーダンが主なところ。そして、セバは、アラビア半島のイエメンの辺りの人々です。彼らは、ペルシアに征服されますが、ユダヤ人は解放されて、エルサレムに住んでいます。そこで、ユダヤ人たちには神がおられることを認めるのです。他には神々はいないが、あなたがたにはいると認めます。

これが、大きな証しですね。思い出すのは、東日本大震災後の復興支援の働きです。最後まで残っていたのは、クリスチャンたちの働きです。また、その周辺の神社や寺は被災者を助けることはありませんでしたが、クリスチャンたちは来ます。それで、彼らは、神と呼ばずに、キリストさんとか、イエスのグループと呼びます。それは、神社も神さまがいるから、それらといっしょにはいけないと思っているからです。この方にしか神はいないと、その選びが見えるのです。

¹⁵ イスラエルの神、救い主よ。まことに、あなたはご自分を隠す神。

ここは、大事な呼び名です。「あなたはご自分を隠す神」ということです。人が思いつきもしないこと、耳で聞いたことのないことを神は行われることによって、ご自身を証しされています。人々が思いついて、これが道であるとするところから隠れているので、「ご自分を隠す神」と呼んでいます。主は、ご自身の一方的な憐れみ、その恵みで私たちに救うので、自分たちの思いや努力で神を推し量ろうとしても、できないのです。ただ、主が御霊によって一人一人に示されることによって、初めてご自身を明らかにします。

少し引用が長くなりますが、パウロがコリント第一でこのことを話しています。「I コリ 2:7-10 私たちは、奥義のうちにある、隠された神の知恵を語るのもあって、その知恵は、神が私たちの栄光のために、世界の始まる前から定めておられたものです。この知恵を、この世の支配者たちは、だれ一人知りませんでした。もし知っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。しかし、このことは、「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった」と書いてあるとおりでした。それを、神は私たちに御霊によって啓示してくださいました。御霊はすべてのことを、神の深みさえも探られるからです。」

¹⁶ 偶像を細工する者どもはみな恥を見、辱めを受ける。彼らはともに、辱めのうちに去る。¹⁷ イスラエルは主によって救われ、永遠の救いに入れられる。あなたがたは恥を見ることも 辱めを受けることもない。永遠に至るまで。

自分の思い、自分の願いを優先させると、それは偶像を細工することになります。自分勝手な思いを神として投影するのが、偶像です。その結果ははっきりとしています。恥を見るか、そうでないかの違いです。聖書では、「恥」という言葉が「失望」と絡めて使われていることが多いです。つまり、期待して信じていたけれども、そのようにならず面目を潰す、というような時の恥です。

2B 公正明大な方 18-19

¹⁸ 天を創造した方、すなわち神、地を形造り、これを仕上げた方、これを堅く立てた方、これを茫漠としたものとして創造せず、住む所として形造った方、まことに、この主が言われる。「わたしは主。ほかにはいない。¹⁹ わたしは隠れたところ、闇の地の場所で、語らなかつた。茫漠としたところで、ヤコブの子孫に『わたしを尋ね求めよ』とは言わなかつた。わたしは主。正義を語り、公正を告げる者。

主は、ご自身を隠される神と言われましたが、それは、何か、暗号のように、だれにも分からない形でしか現れるのではないことを、ここで教えています。主は、創造主です。しかも、茫漠、形なきものとしてではなく、形あるものとしてお創りになりました。

ですから、ご自身が語られる時も、何か闇の中にある暗号を解くようなものではなく、形あるものとして語られるのです。ノストラダムスの大予言とか、前世紀末に流行りましたが、何を言っているのか分からないものです。しかし、聖書の預言は全然違います。だれが呼んでも、明らかに分かるのです。

なぜ、隠れているように見えているのかというと、それは自分たちの理解で知ろうとしているからであり、決して明瞭に語っていないということではないのです。キュロスという名を出して、すべて

そのとおり、文字通り、キュロスのすることを主は語られました。あまりにも、はっきりと語られていて、それをすなおに信じていれば、その人にとってはあまりにも明らかなのです。主は公正明大な方なのです。

3A すべての者の主 20-25

1B 前から告げていた方 20-21

²⁰ 諸国からの逃亡者たちよ。集まって来て、ともに近づけ。彼らは自分たちの木の偶像を担ぐ者、救えもしない神に祈る者たちで、知識がない。²¹ 告げよ。証拠を出せ。ともに相談せよ。だれが、これを昔から聞かせ、以前からこれを告げたのか。わたし、主ではなかったか。わたしのほかに神はいない。正しい神、救い主、わたしをおいて、ほかにはいない。

主は、キュロス王によって追われている諸国の民に語っておられます。彼らは、自分たちの神々を担いで逃げています。あまりにも滑稽ですね。けれども、ユダヤ人は追われることなく、王の布告によって戻ってきています。このようにして、主は、諸国の民にもご自身のことを伝えています。

2B すべてがかがむ義 22-25

²² 地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ。わたしが神だ。ほかにはいない。

主は、キュロス関わった諸国の民に語られた後に、全世界のすべての者に対して、ご自分の救いを与えようとしておられます。ここに、とても単純な救いの招きがあります。「わたしを仰ぎ見て救われよ。」であります。仰ぎ見ることによって、ただそれだけで救われるのです。これだけ福音は恵み深いのです。多くの人々は、主なる神以外のものを見ています。主が造られ、主が贖われ、主がご自分の望まれるままを行われ、この方が神です。

青銅の蛇の話を思い出します。イスラエルの民が、水がない、パンもないといって荒野で不平を鳴らしました。そこで燃える火を主が送り、多くの民にかみつ、死んでいきました。しかし、民は「私たちは罪を犯しました。」と告白します。主はモーセに「青銅の蛇を造り、旗竿にかけなさい。」と言いました。噛まれた者も、それを仰ぎ見れば、生きると言われました。それで彼らは仰ぎ見て、生きたのです。(民数 21:4-9) イエス様がこの箇所をニコデモに語られて、そして言われました。「それは、信じる者がみな、人の子にあつて永遠のいのちを持つためです。(ヨハネ 3:15)」

²³ わたしは自分にかけて誓う。ことばは、義のうちにわたしの口から出て、決して戻ることはない。すべての膝はわたしに向かってかがめられ、すべての舌は誓い、²⁴ わたしについて、『ただ主にだけ、正義と力がある』と言う。主に向かっていきり立つ者はみな、主のもとに来て恥を見る。

主は救いの招きをしてから、全ての人々が文句なしに、「ただ主にだけ、正義と力がある。」とひれ

伏して誓うこととなります。主を仰ぎ見て、救われる人は、この方のことをもちろん認めて、ひれ伏します。けれども、拒む者たちがいます。彼らもひれ伏すのでしょうか？その通りです。恥を見るのですが、それはずっと拒んできたからです。主が明らかにすべての人にご自身を明らかにされた時に、強いられるようにして、この方だけに正義と力があると認めざるをえません。

聖書では、最後の審判があると教えています。その時には、信者だけでなく、不信者もハデスから、海から出されることが書かれています。そして、白い大きな御座において、主が行ないの書にしたがって、各人を裁きます。そして、燃える火の池に投げ込まれるのです。信じた者は、命を受けるために甦ります。しかし、信じなかった者は滅ぼされるために甦ります。

使徒パウロは、これは、「イエスが主である」という告白であることを話しました。「ピリピ 2:10-11 それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」この告白は、今、主を仰ぎ見る者、主が救われると信じる者には、救われるための告白であります。しかし、そうではない者たちは、最後の審判においてそう認めなければいけないこととして、けれども救われるためではなく、滅びるための告白となります。

²⁵ イスラエルの子孫はみな 主によって義とされ、主を誇りとする。」

イスラエルは、自分たちではなく、主ご自身の恵みによって義とされ、自分ではなく主を誇りとします。

このようにして、イザヤの預言には、神の恵みによる、信仰による義の真理がしっかりと預言されています。キュロスがユダヤ人にとって救い主のようになることによって、キリストによる神の義の啓示、神の恵みによる救い、そして信仰によって義と認められることが啓示されているのです。